



農林水産大臣賞典 メイセイオペラ記念 第30回 マーキュリーカップ(Jpn III)

盛岡競馬場／3歳以上OP・ダート2000m

7月20日(日)第12競走 18:15発走

1997(平成9)年、水沢ダート2000mのG III(2007年からJpn III)として設立。1999年第3回までは水沢で、2000年第4回以降は盛岡で実施。ダート中距離の登竜門的性格を持ち、23年の勝ち馬ウィルソンテソーロはのちに24年JBCクラシック、25年マイルチャンピオンシップ南部杯を制覇。24年の勝ち馬クラウンプライドは韓国・コリアCを制覇するなど、その後にGI級レースや海外で活躍する馬も送り出している。第2回・1998年の優勝馬が岩手のメイセイオペラ。同馬にとっての初のグレードレース優勝だったことから「メイセイオペラ記念」の副題が与えられる。

■ドウラエレーデ(牡6 大井・藤田輝信厩舎)



2歳時には芝のGI・ホープフルSを14番人気で優勝。ダートに転じてからもチャンピオンズCで2年連続3着、ドバイワールドC5着などGI級の戦績を残してきた。昨冬の引退表明から一転現役続行、地方移籍と取り巻く環境も変わってきたが、地方移籍初戦の川崎記念では2着を確保して地力健在証明。前走の大井記念は1番人気13着の結果に終わるもJRA時代から気が乗らないと凡走する事があった馬。むしろ“この馬は変わっていない”と言えそうだ。そう。人気の反対をいきがちなタイプ。軽視は厳禁。

前走後は帝王賞に向かうプランもありましたが少し疲労が出たのでスキップしてこちらを選択。軽い砂も良いのでは。少し間隔が開きましたが良い状態で挑めると思います。(藤田輝信調教師)

■リケアカプチャーノ(セン4 岩手・菅原勲厩舎)



昨年暮れの桐花賞で2着となった後、冬期休催期間を利用して去勢。この春の戦線復帰直後はその影響もあったのか敗戦が続く形になったが、いわゆる叩き三戦目の前走・みちのく大賞典はきっちり仕留めて見せた。調子も勢いもこれで完全に取り戻したと判断していいだろう。グレードレース出走は昨年の不来方賞のみだが古馬との交流重賞は昨冬の北國王冠で経験しており手がかりはある。みちのく大賞典連覇を果たした馬がどんな戦いを演じるか？現時点の到達点を計ることにもなる一戦。

状態面はここのところずっと良くなって来ている。ただここは相手が強力ですね。どれくらいやれるのか？ですね。（菅原勲調教師）

■ジョリーロジャー(牡5 岩手・工藤裕孝厩舎)



JRA時代、そして南関東では勝ち星なく終わった本馬だったが昨夏に岩手に転じたその初戦を快勝して待望の初勝利。以降はトントン拍子にクラスを上げてきた。現時点ではA級通用の力量を持っていると考えて良いだろう。ここでの課題は重賞初挑戦が非常に強力なメンバーになったこと、そして1800mまでは対応しているが2000mにはまだ手がかりがない実績だろう。乗り越えるべき壁は高いだろうが今の力を出し切って戦う。

状態面で大きな変化はなく出走できますし長めの距離も合う馬だと思いますが、さすがに相手が強力ですね。自分の競馬をしてひとつでも上を目指したい。（工藤裕孝調教師）

■プリンスミノル(牡7 岩手・畠山信一厩舎)



この春の岩手転入直後に挑んだ赤松杯、次戦に選んだシアンモア記念はいずれも8着。しかし3戦目の青葉特別で3着に食い込むと続くみちのく大賞典でも差は大きめとはいえ5着を確保しており、徐々に進境は見せているといえる。実際、JRA時代の実績でいえばダート中距離路線でオープンまで手が届いており、そこでの勝ち星こそ無かったものの、のちのリステッド勝ち馬とも差が無く戦っているのだから能力の裏付けはある。その力を発揮しきればここでも上位に姿を見せて良いはずだ。

長めの距離に対応できるのは見せてくれた。相手が強力なので強気なことは言えないが、こういう距離のレースなら紛れが生じる事もあるでしょうからね。（畠山信一調教師）

■レライタム(セン5 岩手・伊藤和忍厩舎)



岩手に転入したのはちょうど昨年の今頃。B2編入からポンポンとA級まで駆け上がり、昨年11月の北上川大賞典で5着、今年3月の駒形賞では4着と、勝ち星こそないものの重賞でも存在感を見せているのだからやはり地力はある。ただ重賞やA級上位での戦いとなるとなかなか簡単に勝てないでいるのも確かで、何か良いきっかけが欲しいところ。その点、2000mという舞台は悪くはないはずだ。南部杯以来のグレード挑戦で手応えを掴みたい。

状態は去年と変わらないし調教なんかはむしろ攻めているくらいなのですが、なかなか結果が出ないのが歯がゆいですね。大きいレースでファンの皆さんに喜んでもらえるレースをお見せできれば。（伊藤和忍調教師）

■タカマキファイブ(牡4 岩手・菅原右吉厩舎)



デビューから初勝利までは4ヶ月ほどを要したがそこからは軌道に乗って、やまびこ賞2着、不来方賞では8着を確保。昨年の3歳世代の中では十分な存在感を示していた点は評価したい。対古馬戦になってからは大きめの着順も目立つようになり、昨年の夏頃の勢いが薄れて見える点には注意が必要だが、長めの距離にもある程度対応している戦績という点にも目を配っておきたい。

昨年の今頃くらいの走りができれば・・・ですが状態的には昨年ほどの勢いには今一步かも。補欠からとはいえ選ばれたことに恥じない競馬をと思っています。（菅原右吉調教師）

■ディープリボン(牡6 大井・真島大輔厩舎)



昨年のこのレースにはJRA所属で出走して3着だった本馬が今年は大井所属として帰ってきた。地方に転じてからは2戦して9着・3着の結果に留まるが陣営は確かな変化を感じているようだ。「転入初戦は本当にやること全てが手探り。その初戦の結果からこれをやってみよう、これはどうだろうか、だった2戦目が3着になって、それで手応えがありました（真島師）」。6歳夏で18戦のキャリア。まだまだ馬は若く、そして伸び代も感じさせるとも。昨年以上の結果を目指して勇躍挑む。

前走後は牧場でリフレッシュしましたが凄く良い状態で帰ってきたので態勢を整えるのが楽しかったね。前が速くなりそうな展開、54kgの斤量を味方に付けたいですね。（真島大輔調教師）

■ギェルヴィ(牡4 JRA・大久保龍志厩舎)



デビューは3歳3月の下旬と遅めだったが初戦快勝。ダート中距離を主戦場にここまで掲示板を外さず戦ってきている。勝ち星よりは2着が多いのは“勝ちきれない”という評価にもなってしまうが、しかしこの間の陣営のコメントを読み解いていけば、一戦一戦課題を解消し力を付けてきていることが分かる。武器の先行力が安定し、戦法も定まってきたのがなによりその進化の表れ。ここまでの実績ではまだライバル達に及ばないが、それだけで判断してはいけないだろう。補欠繰り上がりで重賞初挑戦の「運」も後押ししてくれる。

■テストモーネ(牡4 JRA・大根田裕之厩舎)



重賞挑戦は昨年のユニコーンS以来。その時は8着に終わったが、その後は着実にクラスを上げてきた。三走前は心房細動の影響で大敗の形に終わったもののその後の二戦は以前よりも強さを増したかのような走りで連勝。いずれも鞍上の評価も高く、古馬重賞でも通用する能力があると見なされている新鋭だ。距離に関しては現状1800mまでだが先々を見通せば2000m対応の手応えを掴んでおくことは重要。そんな課題を持って挑む陣営へ“一発回答”してみせたとしても全く不思議はない。

競馬に行くとテンションが上がるところがあるので適度に間隔を空けてフレッシュな状態で使うようにしている。1800m以上で結果は出ていないがこなしてくれると思っています。(平野真和助手)

■ナイトオブファイア(牡4 大井・渡邊和雄厩舎)



あれは一昨年の南部杯の日。ミックファイアで来盛した渡邊調教師が「もうすぐ期待の2歳がデビューするんだよ」と言われて自分はその場で馬名をメモした。それがナイトオブファイアだった。本馬は師の期待に違わずデビューから4連勝、3歳ダート三冠路線でも羽田盃2着・東京ダービー4着・ジャパンダートクラシック7着と南関東の大将格として戦い抜けたのはやはり素質の高さ・地力の高さの証と言っている。古馬との戦いではやや苦戦が続くがあくまでも成長過程の中の事。今日の戦いもまた成長の糧に。

体調は安定していて順調そのもの。現状は長めの距離で結果を出しているし左回りも乗った人みなが良いと言う。今回の条件はこの馬に合うと思っています。(渡邊和雄調教師)

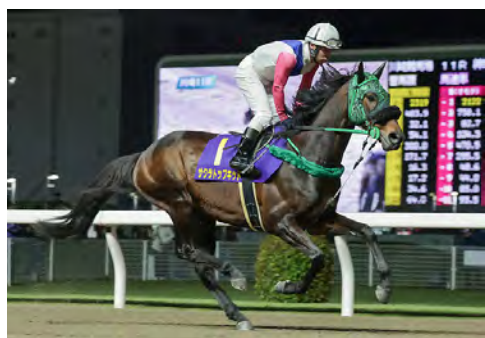
■ムルソー(牡5 JRA・池江泰寿厩舎)



デビュー戦こそ芝を選んだがそこで敗れたあとは即座にダートに転じて大差勝ちで初勝利。その後はダートで掲示板を外さぬ戦いを続けてきている。重賞タイトルも前走が初となっではいるが、オープンに上がってからはなかなか狙ったレースに出走できなかったのと爪の不安が残っていた時期があったため。能力は早くから重賞級と言われていたし、そもそもあのハイレベルだった一昨年のユニコーンSで5着だったのだからソコソコレベルの馬であるはずがない。ここで2000mも克服してさらに飛躍を目指す。

前走後リフレッシュ放牧。帰厩当初は動きが少し緩慢でしたが一週前追い切りで負荷をかけて息の入りは良くなった。左回りは問題無いし距離も許容範囲かなと思います。(池江泰寿調教師)

■サクラトップキッド(牡5 岩手・伊藤和忍厩舎)



昨年9月の白山大賞典を皮切りに今年春にかけて積極的な遠征を選択。好結果を手にすることはできなかったが、しかしどの遠征も目先の好結果よりは強い馬とぶつかって力を付けて欲しいという陣営の狙いであり願いの表れ。着順だけで成果は計れないだろう。実際、昨冬の北上川大賞典・桐花賞を連続で制し、今年のあすなろ賞やみちのく大賞典でも勝ち馬との差は昨年より大きく詰めたのが遠征で得た経験値の分だろう。このレースでは昨年4着。ここも“昨年の自分を超越する戦い”を見せる。

前走後もしっかり調教をこなして変わりなく順調です。先行馬が揃ってよどみなく流れる形は戦いやすいと思う。昨年以上の結果を目指したいですね。(伊藤和忍調教師)

■サンデーファンデー(牡6 JRA・東田明士厩舎)



ダート1800mの2歳新馬戦を勝ってからはしばらく雌伏の時が続いたものの、約11ヶ月ぶりの2勝目を挙げてからはあっという間にオープン入り。リステッド勝ち、GII勝ちとしっかりステップを踏んで、ダート中距離重賞路線に欠かせぬ一頭の位置を確かなものにしてきた。脚質的にどうしても自分の形で戦えるかどうか？ゆえ大敗もしばしばあるのだが、一方で59kgを背負って押し切ってみせるのだから能力は折り紙付きだ。今回も57kgは比較して有利ではないがこの馬にとっては軽斤量。気持ちよく走り抜いて3つめのタイトルへ。

前走後はここ目標と決めて逆算しながらの調整。競馬に向けてはしっかり仕上がった。逃げ絶対ではないので、揉まれずに自分の競馬ができればチャンスはあるでしょう。(東田明士調教師)

■メイショウフンジン(牡8 JRA・秋山真一郎厩舎)



このレースは5年連続の参戦。今回のメンバー中ではもちろん最多だし、過去を振り返ってもこれだけ何度も出走した馬はなかなかいない。それは“長く一線級で戦ってきた”という証でもあってただただ頭が下がるものだ。地方交流・中距離のグレードレースではこの馬の先行力に対応してなお捉えられるか？がひとつのベンチマークになっているとも聞く。昨年のヒロシクンとの壮絶な先行争いは記憶に新しいところだが、2月の佐賀記念でも2着を確保したように先行力はまだまだ侮れないレベルを維持している事は意識しておきたい点だ。

一週前の追い切りはちょっと動きが鈍く感じたが最終追い切りでは動きが良くなった。同型が出てくるのは競馬なので仕方ない。実績ある舞台は合うと思う。(秋山真一郎調教師)

文・特記無き写真／横川典視

JRA所属馬写真提供／JRA

JRA所属馬コメント協力／グリーンチャンネル

■マーキュリーカップ／過去5年の優勝馬



2025 優勝／カズタンジャー

栗毛 牡4歳
父／ドレフォン
母／ダウントアウンブギ（母父アサクサキングス）
生産／日高・クラウン日高牧場
馬主／吉田和美 調教師／新谷功一 騎手／川田将雅



2024 優勝／クラウンプライド

黒鹿毛 牡5歳
父／リーチザクラウン
母／エミーズプライド（母父キングカメハメハ）
生産／千歳・社台ファーム
馬主／吉田照哉 調教師／新谷功一 騎手／横山武史



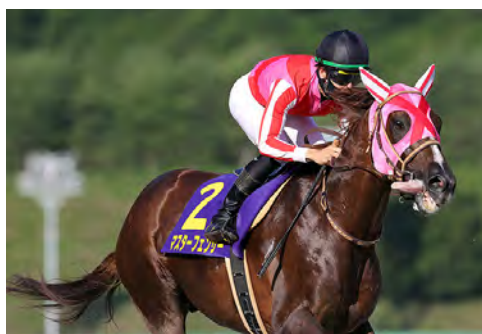
2023 優勝／ウィルソンテソーロ

鹿毛 牡4歳
父／キタサンブラック
母／チェストケローズ（母父Uncle Mo）
生産／日高・リョーケンファーム株式会社
馬主／了徳寺健二ホールディングス（株）
調教師／小手川準 騎手／川田将雅



2022 優勝／バーデンヴァイラー

黒鹿毛 牡4歳
父／ドゥラメンテ
母／ヴィートマルシェ（母父フレンチデピュティ）
生産／安平・ノーザンファーム
馬主／（有）キャロットファーム
調教師／斉藤崇史 騎手／福永祐一



2021 優勝／マスターフェンサー

栗毛 牡5歳
父／ジャスタウェイ
母／セクシーザムライ（母父Deputy Minister）
生産／浦河・三嶋牧場
馬主／（株）吉澤ホールディングス
調教師／角田晃一 騎手／松山弘平